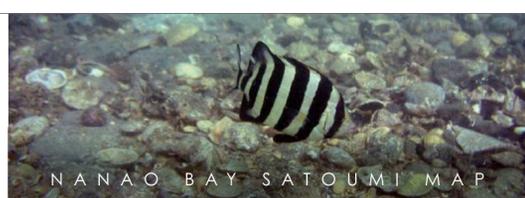


七尾湾 里海 マップ

七尾湾は「里海」

七尾湾

- 湾口幅: 11.58km
- 面積: 182.92km²
- 湾内最大水深: 58m



七尾湾 里海 マップ

「里海(さとうみ)」とは1998年に九州大学の柳哲雄教授により提唱された言葉で、「人手をかけることにより、生物多様性と生産性が高くなった沿岸海域」と定義されています。ただ、全国各地の海でさまざまな人と海とのかわり方があるように、里海のとらえ方や考え方も各地で異なっていて良いという意見もあります。

七尾湾は、漁業の場として、また交通の要所として古くから人々の暮らしとかわり合ってきました。わたしたちに海の幸や海とふれ合う楽しさ、きれいな風景など、さまざまな恵みを与える七尾湾は、石川県の代表的な里海であるといえます。

この七尾湾と人とのよりよい関係を、私たちはもっと理解し、守り、育て、次の世代に受け渡す必要があります。

七尾湾は、能登半島の基部の東側にあり、七尾市、穴水町により囲まれている湾です。湾内には、能登半島に抱かれるように能登島があり、七尾湾を3つの水域(北湾、西湾、南湾)に分けています。その地形のおかげで、七尾湾は冬でも波が穏やかで、大部分が能登半島国定公園に含まれている風光明媚な海域です。日本海内湾の大規模アマモ場であり希少種が多いとして、環境省の「日本の重要湿地500」にも選定されています。

能登島周辺の海岸は珪藻土が多いため、浸食を受けやすく、海から見た地形は、陸からは想像できないような変化に富んだものとなっています。海に近づく、水の透明度が高いため、すれ違う生き物がよく見え、身近に感じられます。飛び跳ねる魚たち、近づくと怒るウミネコ、美しく優雅に泳ぐクラゲなど、人の暮らしがあるのと同じように、生き物の暮らしもまた、そこにあるということを感じることができます。

水産や海運に加え、海洋レジャーなど、様々な立場の人々が七尾湾と関わっています。七尾湾の魅力は、「海と人との深い関わり」を感じられることなのかもしれません。

発行: 平成22年3月
七尾湾里海創生プロジェクト運営委員会
事務局: 石川県環境部自然保護課
Tel.076-225-1477
制作: 株式会社 御蔵川
Tel.0767-54-8866

このマップは、環境省の「里海創生支援モデル事業」のひとつに選ばれた「七尾湾里海創生プロジェクト」(平成20~21年度)の一環として、七尾湾の現状や自然と人の関わりを理解していただくために作成したものです。

◆七尾湾里海マップは以下のURLからも見られます。
www.pref.ishikawa.jp/sizen/index.htm

NANAO BAY SATOUMI MAP 七尾湾に目を向けよう。

七尾湾の眺望景観
七尾湾と能登島の複雑な海岸線が望まれる。良く晴れた日には立山連峰も。

石川県漁協穴水支所
穴水地区のカキ養殖についてのお問い合わせはこちらまで。
☎0768-52-1180

いさざ漁
「いさざ」とは「シロウオ」のことで、春の訪れとともに、穴水町の川の河口で四ツ手網によって捕れます。

定置網漁業
七尾湾周辺の能登町から七尾市の界域にかけては大小の定置網が数多く点在し、日本有数の定置網地帯となっています。定置網は魚を採り回す必要のない「待ちの漁業」なので、船の燃油が少なくすむ環境に優しい漁業です。さらに最近では小型魚を逃がすため網目をしようとする等、資源にも優しい漁業を目指す動きがあります。獲れたての新鮮な魚が買える朝市がたつ港もあります。

ボラ待ちやぐら
やぐらの上で終日、ボラの群を見張り、網をたぐるという江戸時代にはまった伝統漁法。最盛期には、湾内に多数のやぐらが見られたが、今は、観光用のやぐらが当時の風景を伝えています。

七尾湾の貴重な自然海岸
No.1 黒島

七尾湾の貴重な自然海岸
No.2 長崎町

七尾湾の貴重な自然海岸
No.3 寺島

鹿波島(鹿波島定置)
朝市は日曜日以外 5:30~7:30
☎0767-58-1350

石川県漁協七尾支所

石川県漁協 ななか支所

下佐々波漁港(佐々波網)
朝市は第3日曜日 7:00~7:15
☎0767-59-1131

- 七尾湾の漁業
- 七尾湾と歴史文化
- 七尾湾の自然
- 七尾湾と体験活動